

# ミュージアム県 ながさき

# 2

2014年 新春号  
MUSEUMS IN NAGASAKI  
PREFECTURE

## 【特集】キリスト教文化と ミュージアム①



ミュージアムの人々  
ミュージアム逸品紹介  
自慢の体験プログラム  
建物探訪  
MUSEUM★TOPICS

ミュージアム県ながさき vol.2 2014年1月発行 ©長崎県文化振興課 〒850-8570 長崎市江門町2-13 TEL 095-895-2762 FAX 095-829-2336 <http://tabinaga.jp/museum/>

これからのおもな展覧会 \*会期や内容は変更になることがあります。



長崎歴史文化博物館



魅惑の清朝陶磁  
H25年12月28日(土)~H26年3月3日(月)  
企画展示室



「粉彩菊蝶図盤」静嘉堂文庫美術館蔵

〒850-0007 長崎市立山1丁目1番1号  
TEL 095-818-8366  
<http://www.nmhc.jp/>



長崎県美術館



ソフィア王妃芸術センター所蔵  
内と外  
—スペイン・アンフォルメル絵画の二つの『顔』  
H26年1月17日(金)~3月9日(日)  
常設第1室



エステバン・ピセンテ《ミッドウェスト》1953年  
©The Harriet and Esteban Vicente Foundation

〒850-0862 長崎市出島町2-1  
TEL 095-833-2110  
<http://www.nagasaki-museum.jp/>



壱岐市立一支国博物館



ジュディ・オング<sup>せいぎよく</sup>倩玉  
木版画の世界展  
H25年12月13日(金)~H26年2月16日(日)



《涼庭忘夏》2008年(第40回日展入選)  
©HEEMORY/STPEast

〒811-5322 壱岐市芦辺町深江鶴亀触515-1  
TEL 0920-45-2731  
<http://www.iki-haku.jp/>

長崎県ミュージアム  
連携促進事業  
「ミュージアム県ながさき」



長崎県内のミュージアムの検索システム。各施設の基本情報のほか、最新の展覧会情報などを随時更新しています。県内ミュージアムの見学時にご活用ください。  
<http://tabinaga.jp/museum>

### お問い合わせ

- 「ながさき歴史発見・発信プロジェクト」について  
長崎県文化振興課 TEL095-895-2762
- 『旅する長崎学』について  
長崎文献社 TEL095-823-5247

思わず旅したくなる歴史ガイドブック  
長崎県企画「ながさき歴史発見・発信プロジェクト」

## 旅する長崎学

各号600円(税込) A5版/64ページ/オールカラー

### 全21巻

- ◆1~6巻  
キリシタン文化
- ◆7~10巻  
近代化ものがたり
- ◆11~15巻  
海の道
- ◆16~17巻  
海の道(中国交流編)
- ◆18~21巻  
歴史の道



### ご購入方法

- お近くの書店でご注文  
(取り寄せになる場合は、多少お時間がかかります)
- 出版社からご購入(送料・代金の振込手数料はお客様負担)  
長崎文献社 TEL095-823-5247
- インターネットでご購入(大手書店、または長崎文献社のネットショッピングをご利用ください)

## 「長崎の教会群」を 世界遺産へ!

世界遺産登録実現を目指しています。  
「長崎の教会群」を世界遺産へ!   
長崎県世界遺産登録推進室 TEL:095-894-3171



大浦天主堂(長崎市)

ネットで学ぶ長崎学もチェック!

長崎県の歴史と旅の  
遊学サイト「たびなが」  
詳しくはWEBで  
たびなが



# キリスト教文化とミュージアム①

〔取材協力〕＊掲載ミュージアム以外  
南島原市教育委員会生涯学習課  
松川隆治氏  
本馬貞夫氏

〔画像提供〕＊掲載順  
長崎歴史文化博物館 《〈南蛮人来朝之図〉・ティセラ《日本図》》:p.3、施設外観:p.6、施設外観・《粉彩菊蝶図盤》:裏表紙)  
日本二十六聖人記念館 《〈聖ザビエルの書簡〉》:p.4)  
長崎県文化観光物産局文化振興課  
（長崎歴史文化博物館常設展示室:p.6、《メダイ「サルバトル・ムンディ（世の救い主）」》・『こんちりさんの路』・《イナッショさま》:p.7、平戸城外観:p.10、千拓資料館農業再現人形画像・旧早川家住宅風景:p.20、連携リレー講座会場風景:p.21)  
長崎市文化観光部文化財課（サント・ドミンゴ教会跡資料館内部および「花十字紋瓦」:p.6)  
松浦史料博物館 《〈受胎告知図柄菓子鉢〉》:p.10)  
南島原市教育委員会（日野江城石段:p.14、金箔瓦:p.15)  
島原城（施設外観:p.15)  
天草市立天草キリシタン館（展示室:p.15)  
天草市立天草口ザリオ館（施設外観:p.15)  
大村市教育委員会事務局文化振興課 《〈メダリオン「無原罪の聖母」〉・大村市原口郷出土のキリシタン墓碑:p.16、ウェブサイトトップページ:p.21)  
長崎県立対馬歴史民俗資料館 《〈ハギトウジン〉・《朝鮮国信使絵巻》》:p.18)  
諫早市企画調整課（諫早市美術・歴史館展示室:p.21)  
長崎バイオパーク（ノンノンとムサン:p.21)  
長崎ベンギン水族館（キングベンギンの親子:p.21)  
長崎県美術館（施設外観・《ミッドウェスト》:裏表紙)  
杵岐市立一支国博物館（施設外観・《涼庭忘夏》:裏表紙)  
長崎県文化観光物産局世界遺産登録推進室（大浦天主堂外観:裏表紙)

長崎県には、歴史、民俗、美術、自然科学、産業などをテーマとした特色あるミュージアムが各地に数多くあります（H24年度末現在165施設）。本県では、平成22年度より、これらのミュージアムを地域の大切な資源として、より魅力ある地域づくりの「てこ」とするため、各施設の活性化と施設間の連携を進めていく「長崎県ミュージアム連携促進事業」を推進しています。

本情報誌は、この事業の一環として、県内所在の美術館、博物館、動水植物園等のミュージアム各館の魅力と取組を、様々な角度から、皆様に広くご紹介するもので、平成25年2月に創刊しました。

本情報誌を、各施設の基本情報等を掲載しておりますウェブサイト「ミュージアム県ながさき」(http://tabinaga.jp/museum/)ともあわせて、県民の皆様をはじめ、県外から観光等でお越しになられる皆様に気軽にご利用いただけましたら幸いです。

平成26年1月

長崎県文化観光物産局文化振興課

長崎県ミュージアム連携促進事業

長崎県内ミュージアム情報誌

## ミュージアム県ながさき

Contents

### 2 プロローグ

### 4 日本二十六聖人記念館

### 6 長崎歴史文化博物館 サント・ドミンゴ教会跡資料館

### 7 長崎市外海歴史民俗資料館 長崎市遠藤周作文学館

### 8 旧羅典神学校 キリシタン資料室（大浦天主堂）

### 9 長崎純心大学博物館

### 10 松浦史料博物館 平戸城

### 11 平戸市切支丹資料館

### 12 平戸市生月町博物館・島の館

### 14 南島原市口之津歴史民俗資料館・海の資料館

### 15 原城文化センター（発掘出土品展示室）(仮称) 島原城（キリシタン史料館）

### 16 大村市立史料館

### 17 ミュージアムの人々 ナガサキピースミュージアム

### 18 ミュージアム逸品紹介 長崎県立対馬歴史民俗資料館

### 19 自慢の体験プログラム やすらぎ交流拠点施設 音浴博物館

### 20 建物探訪 諫早ゆうゆうランド千拓の里 千拓資料館

### 21 MUSEUM★TOPICS

写真：長崎市遠藤周作文学館から角力灘を望む

表紙：《雪のサンタマリア》日本二十六聖人記念館蔵  
1600～1614年頃制作。外海のキリシタンが潜伏期に信仰の対象としていたと思われる古い掛軸で、セミナリヨで絵を学んだ者の手になる。

ミュージアム県ながさき 平成26年（2014）1月発行  
企画・発行-長崎県文化振興課 デザイン=デザインスタジオ ヨンエフ  
写真撮影-松尾順造 取材・編集=企画編集スタジオ ノンブル 印刷=(株)藤木博英社  
本誌掲載の記事、写真、イラストなどの無断転載および複写を禁じます。

# 「日本二十六聖人記念館」で、ザビエルの直筆に出会う

エキゾチックな長崎の街並みは、その昔、キリスト教文化が栄えたことにも由来しています。厳かに響く教会の鐘の音や、シスターたちのやさしい笑顔は、長崎のまちにやすらぎをもたらしています。

日本におけるキリスト教の歴史は、1549年(天文18)フランシスコ・ザビエルの布教によって始まります。1570年(元亀元)にポルトガルとの貿易港として開かれた長崎には、イエズス会本部が置かれたことで日本におけるキリスト教布教の拠点となり、数多くの教会や学校が建てられました。1587年(天正15)に、時の権力者である豊臣秀吉が伴天連追放令を発し、1597年(慶長2)には宣教師や信者たち26人を処刑

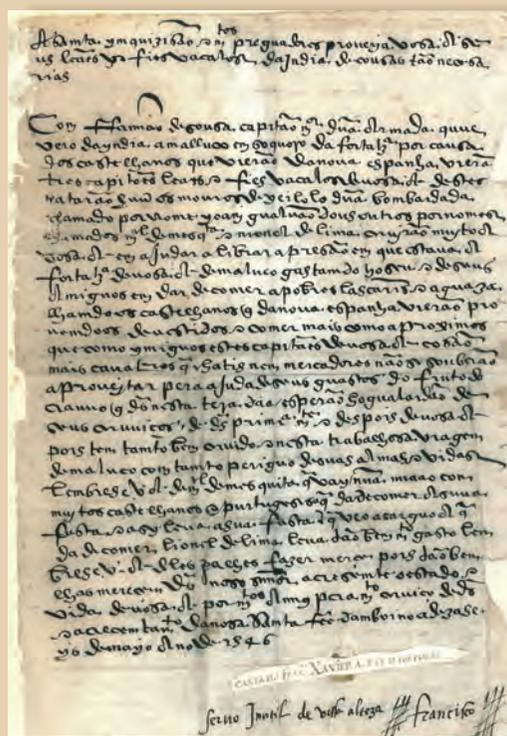
するという事件(日本二十六聖人殉教)が起こりましたが、徳川政権発足後の10年間は、「小ローマ長崎」といわれるほどキリスト教文化が栄えました。



西坂公園内にある舟越保武作《長崎26殉教者記念像》。その背後に日本二十六聖人記念館、右奥に日本二十六聖人記念聖堂・聖フィリッポ教会が見える(ともに建築家・今井兼次的设计)。

長崎駅から徒歩すぐの丘にある西坂公園。ここは、今から約400年前に、日本ではじめてのキリストの大殉教が起こった場所です。秀吉の命により京都や大坂で捕らえられたフランシスコ会、そしてイエズス会の宣教師や信者らは、長崎まで1か月かけて歩かされ、1597年2月5日、この西坂の丘で十字架にかけられ処刑されました。

彼らが命を棄ててまで守り抜いたキリスト教の信仰。さまざまな遺品や資料が展示されているのが、記念碑の背後にある「日本二十六聖人記念館」です。26人の殉教者たちが聖人に列せられた百周年を記念して1962年に開館しました。まだ日本では



《聖ザビエルの書簡》 1546年5月16日付 アンボイノ(インドネシア)発 ポルトガル王ジョアン3世宛



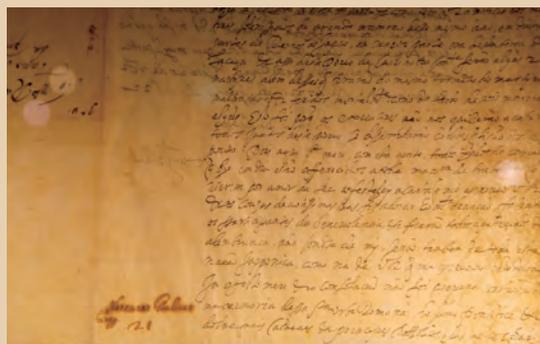
日本二十六聖人の一人 聖ヤコブ喜斎の遺骨 スペインで保管されていたが開館を記念し日本に戻ってきた。



プラケット《悲エタ》(県指定有形文化財) 16~17世紀 ブロンズ(イタリア製) 1962年に長崎で発掘されたもの。キリシタンが保管し、絵踏に使用されることはなかった。



《銅造弥勒菩薩半跏思惟像》(県指定有形文化財) 朝鮮半島の三国時代(6~7世紀)の製作と考えられている像。日本にもたらされた後、潜伏キリシタンの家でキリストを象徴するものとして守られてきた。



天正遣欧少年使節のひとり中浦ジュリアンの手紙

「西坂はキリスト教の信者にとっては世界的に知られる聖地です。今は、家に居ながらインターネットで何でも情報を得られる時代ですが、その場所に来なければ感じられないものがあるはず。展示物にしても、一つの「もの」からいろんなイメージネーションをふくらませることが出来ます。そこには展示物と見る人との対話があるのです。ぜひゆっくり時間をかけて見に来てください」とレンゾ館長。



中浦ジュリアンの手紙とレンゾ館長

## 日本二十六聖人記念館

住所: 〒850-0051 長崎市西坂町7-8  
TEL:095-822-6000  
URL:http://www.26martyrs.com/

- 開館時間 9:00~17:00
- 休館日 年末年始のみ休館
- 観覧料 一般500(400)円、中高生300(200)円、小学生150(100)円 ※( )内は20人以上の団体割引料金
- 駐車場 長崎市管理駐車場 9:30~17:00 無料(普通車10台)



# 「小ローマ長崎」時代の教会跡をたずねる

西坂公園から中町教会がある通りに沿って行くと、かつて長崎奉行所立山役所があった場所に「長崎歴史文化博物館」があります。ここは近世長崎の海外交流史をテーマとする県内最大の博物館で、そのシンボリックな存在として、奉行所の一部を復元して展示室にしています。江戸時代、厳しいキリシタンの取締りを行っていた長崎奉行。歴代長崎奉行の紹介やその裁判記録である犯科帳などとともに、宗門蔵に厳重に保管されていたキリシタン関連資料（現・東京国立博物館蔵）も紹介されています。ここは「山のサンタマリア教会」（1590頃〜1614）

があった場所といわれてきました。博物館建設時の発掘では遺構は確認できませんでした。

## 長崎歴史文化博物館

住所:〒850-0007 長崎市立山1-1-1  
TEL:095-818-8366  
URL:http://www.nmhc.jp/  
■開館時間 8:30~19:00  
■休館日 第3火曜(祝日の場合は翌日)  
■観覧料 常設展:一般600(480)円、小中高生300(240)円  
※( )内は15名以上の団体割引料金。  
企画展は別料金。長崎県内の小中学生は無料。  
そのほか各種減免制度有。  
■駐車場 有料(普通車62台、バス5台)



常設展示室の導入部では、大航海時代の華やかな交流の歴史が紹介されています。



禁教時代にキリスト教に関わるものを厳重に保管していた宗門蔵も復元されています。



江戸時代初期の教会遺跡は全国でも珍しい。



キリシタン文化の痕跡「花十字紋瓦」



## サント・ドミンゴ教会跡資料館

住所:〒850-0028 長崎市勝山町30番地1(桜町小学校内)  
TEL:095-829-4340  
URL:http://www.city.nagasaki.lg.jp/shimin/190001/192001/p000835.html  
■開館時間 9:00~17:00  
■休館日 月曜、年末年始(12/29~1/3) ※臨時開館あり  
■観覧料 無料  
■駐車場 無し

長崎歴史文化博物館の近くには、サント・ドミンゴ教会があります。サント・ドミンゴ教会は、1609年(慶長14)、キリスト教が盛んな時代に鹿児島から長崎に移築されたドミニコ会の教会堂でしたが、山のサンタマリア教会と同じく破壊され、末次屋敷、高木代官屋敷が建てられました。それから時は流れ、2002年の長崎市立桜町小学校の校舎建て替えに伴って行われた発掘調査の際に、この教会の遺構が発見され、大量

に出土した花十字の瓦が人々の関心を集めました。この貴重な江戸時代初期の教会遺跡は、現在そのままの状態です。資料館として公開されています。薄暗い遺跡の中を歩くと、石畳や地下室の遺構が実見でき、花十字の瓦の展示と併せて400年前にここに教会が建っていたという歴史的事実をその独特の空気の中に感じ取ることができます。

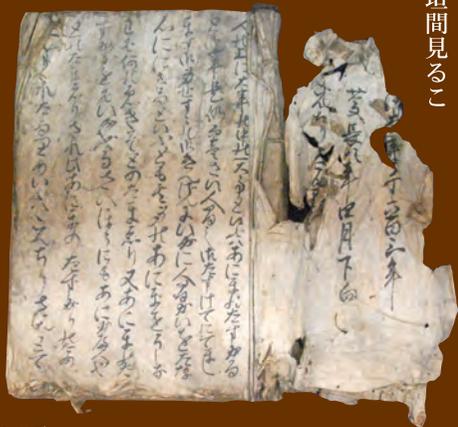
# 遠藤周作も惹きつけられた 外海の信仰の歴史

角力灘(五島灘)をのぞむ海岸沿いの急峻な斜面に広がる外海地区。厳しい弾圧を行った大村藩領にあって、藩の中心部からは遠く、かつて佐賀藩領の飛地が入り組んだ特殊な地域であったことなどから、禁教時代に入った後も監視の目が行き届かず、多くのキリシタンが潜伏し、密やかに信仰を守ることが出来たといわれています。



《イナッショさま》  
イエズス会の創立者・聖イグナチオ・デ・ロヨラ(1491~1556)をあらわす小像。外海のキリシタンたちは「イナッショさま」と呼び信仰の対象とした。

「長崎市外海歴史民俗資料館」をたずねると、当時の外海の慎ましい暮らしがとどまっています。2階がキリシタン関連の展示室。長い年月の重みを感じ、祈りの言葉を綴ったオラシヨ、キリシタン行事を書いた日練り(暦)など、長い潜伏時代の信仰を支えたものと出会えます。キリシタン暦を伝える伝説の日本人伝道士バスターンが遺した(七代後にはコンヘソロー(告白をきく神父)が大きな黒船に乗ってやってくる)という



『こんちりさんの略』  
1603年(慶長8)書写の写し。神父不在の中伝えられてきたオラシヨ(痛悔の祈り)。

予言を信じ、辛い暮らしの中でも励ましあって信仰を貫いたといわれる外海のキリシタンたち。そして、その過酷な信仰の歴史に惹きつけられたのが小説家・遠藤周作です。禁教時代の外海をモデルにして書かれた遠藤周作の小説『沈黙』(1966年)。大海原を背景に建てられた「沈黙の碑」には、この碑のために特別に著した「人間がこんなに哀しいのに、主よ、海があまりにも碧いのです」との一文が刻まれています。この深遠な問いのような言葉を反芻しながら、向かった先は「長崎市遠藤周作文学館」。ここも美しく碧い海を臨む絶景の地。



メダイ  
《サルバトル・ムンディ(世の救い主)》  
(市指定有形文化財)  
出津修道院寄託  
ルネサンス期のメダイで、宣教時代に外海地区の信者に渡された聖具のひとつ。

## 長崎市外海歴史民俗資料館

〒851-2322 長崎市西出津町2800番地  
TEL:0959-25-1188  
URL:http://www.city.nagasaki.lg.jp/kanko/820000/828000/p000837.html

■開館時間 9:00~17:00  
■休館日 年末年始(12/29~1/3)  
■観覧料 一般300(240)円、小中高生100(60)円  
※( )内は10名以上の団体割引料金。  
長崎市ド・ロ神父記念館との共通入館料  
■駐車場 無料(普通車30台)

## 長崎市遠藤周作文学館

〒851-2327 長崎市東出津町77番地  
TEL:0959-37-6011  
URL:http://www.city.nagasaki.lg.jp/endou/

■開館時間 9:00~17:00(入館は16:30まで)  
■休館日 年末年始(12/29~1/3)  
■観覧料 一般350(250)円 H26/4/1より一般360円  
小・中・高校生200円(100円)  
※( )内は10名以上の団体割引料金  
■駐車場 無料(普通車20台)



# 「信徒発見」の舞台となった大浦天主堂

長崎市南山手にある大浦天主堂。正式名称は「日本二十六聖殉教者天主堂」で、日本二十六聖人に捧げる教会堂として建てられました。

大浦天主堂がバリ外国宣教会のフューレ神父やプチジャン神父などによって創建されたのは日本開港直後の1865年(慶応元)。長崎の人々はそれまで見たこともない洋風の建築物に驚き「ふらんす寺」と呼んで連日見物に訪れたそうです。創建して間もない同年の3月17日、浦上から数人の男女が教会を訪れます。そして、その中の一人の女性がプチジャン神父にそつとたずねたのです。「ここにお



国宝・大浦天主堂、正式には日本二十六聖殉教者天主堂

ります私どもは、全部あなた様と同じ心でございます。「サンタ・マリアの御像はどこ？」彼女らがキリシタンの子孫だと確信したプチジャン神父は「マリア像へ案内しました。これが、七代、約250年にもおよぶ厳しい弾圧にも負けず信仰を密かに守り続けた浦上キリシタンが信仰を表明した「信徒発見」の瞬間でした。プチジャン神父は、うれしさと感動で震えながら、すぐに横浜のジラール神父に報告の手紙を出しました。ヨーロッパでも世界宗教史上の奇跡として大きく取り上げられた「信徒発見」。堂内にはその歴史的な場面を目撃したマリア像が

当時のままに温かい微笑みで訪れる人を迎えてくれます。

教会の横には1875年(明治8)にプチジャン神父によって設立された神学校の校舎である「旧羅典神学校」(国指定重要文化財)があります。その後海外の主任司祭となったド・ロ神父の設計によるも

ので、1階の「キリシタン資料室」には、ローマカトリックに復帰した信者たちが教会に納めた、潜伏期に礼拝の対象としていたマリア観音などの遺物のほか、信徒発見前後の様子をうかがうことのできる資料などが展示されています。



信者が納めたマリア観音



プチジャン司教がフランスの巡礼地ルルド参詣の記念に持ち帰り、伊王島(馬込)の伝道婦で社会事業家の太田エンに与えたロザリオ



旧羅典神学校(国指定重要文化財)1階にキリシタン資料室がある。

## 旧羅典神学校 キリシタン資料室

住所:〒850-0931 長崎市南山手町5番3号[大浦天主堂内]  
TEL:095-823-2628

URL: <http://www.1.bbiq.jp/oorahp/>

■閉館時間 8:00~18:00(受付は17:45まで)

■休館日 無休

■観覧料 一般300(250)円、中高生250(200)円、小学生200(150)円。  
障害者割引料金:一般200(150)円、中高生150(100)円、小学生100(50)円  
※( )内は30名以上の団体割引料金。※大浦天主堂拝観料と共通

■駐車場 無し



## 世界を驚かせた浦上キリシタンの心にふれる

信徒発見の喜びが記録されたプチジャン司教書簡(エアリア写本)



「キリシタン禁制と懸賞訴人の制札」1711年(正徳元)



『櫻町宗旨改踏絵帳』1630年(寛永7)より、家ごとに人別の宗旨と檀那寺、家族関係、年齢を記して作成されたもの。長崎では踏絵台帳にもなった。

大浦天主堂で信仰を表明した浦上のキリシタン。もし、その時に信者であることが打ち明けられていなかったら、日本のキリスト教の歴史は変わっていたかもしれません。そんな思いを抱きながら、長崎で古くからキリシタン史の研究を行い、特に浦上キリシタンについての資料が豊富な「長崎純心大学博物館」へ足をのぼしてみることにしました。新地町の長崎バスターミナルから「恵の丘」行きのバスに乗り、かつてキリシタンが潜伏していたという三ツ山地区(大村領木場村)を通り約50分ほどで到着。博物館の館長は、長崎純心大学の教授でもあるシスター片岡瑠美子。キリシタン研究の第一人者として知られる故片岡弥吉氏を父に持ち、幼い頃からキリスト教の教えの中で育った方です。優しさに満ちた笑顔に心が癒され、スタッフの皆さんとともに温かく迎えてくれました。



館長のシスター片岡瑠美子

「絵帳」などの禁制資料、「マリア観音」などの潜伏キリシタンおよび『聖教初学要理』等の復活キリシタン関係資料などが保管されています。中でも貴重な資料が、プチジャン神父が信徒発見のニュースをパリの本部に伝えた書簡(エアリア写本)。よく見ると、浦上キリシタンの告白を「santa maria gozouwa dokoi」とローマ字綴りで書いています。「プチジャン神父にとつて、その言葉はあまりにも印象的だったのでしようね。はかりしれない喜びの表れだと思えます」と片岡館長。そのほか博物館には、長崎の美術工芸品や郷土史関係資料、大学の歴史を物語る資料などが展示されています。

## 長崎純心大学博物館

〒852-8558 長崎市三ツ山町235  
TEL:095-846-0084(代)

※受付時間:平日10:00~16:00、土曜日10:00~12:00(休館日を除く)  
URL: <http://www.n-junshin.ac.jp/univ>

■開館時間 平日10:00~16:00、土曜10:00~12:00

■休館日 日曜、祝日、学園創立記念日  
学校の定める日、春・夏・冬休みの作業日

■観覧料 無料  
■駐車場 無料



# ザビエルが最初に布教した平戸へ

宣教師フランシスコ・ザビエルが鹿兒島からポルトガル船が来航する平戸を訪れたのは1550年(天文19)のこと。領主松浦隆信は、ポルトガルとの貿易を歓迎しており、布教を許可しました。ザビエルが平戸を去ったあとにも宣教師たちはキリストの教えを広めていきましたが、松浦氏はキリスト教を取り締まるようになり、それでも信仰の灯は完全に消えることはありませんでした。



歴史の重みを感じる松浦史料博物館の展示空間

などの禁教政策にまつわるものもあります。また、平戸藩も参戦した原城での攻防を描いた大幅(原城攻囲陣営並びに城中図)(県指定有形文化財)では、戦況の様子が詳細に記録されています。



《松浦隆信肖像》(部分) 松浦史料博物館蔵

博物館の近くには、和と洋が混在した風景に平戸らしさを感じる「寺院と教会の見える風景」の通りや、のちのオランダとの交易の歴史を伝えるオランダ井戸やオランダ塀などの史跡、そして2011年に復元された「平戸オランダ商館」などがあります。



平戸港を見守る平戸城。第29代松浦鎮信と山鹿素行が築城の構想を練ったと伝えられ、1718年(享保3)から明治維新までのおよそ150年間、平戸藩政の中心だった。現在の天守閣は1962年に平戸市が復元したもので、堂々たる北虎口門扉や石垣などが当時の面影を伝えている。城内の資料館には環頭大刀(重要文化財)などの貴重な資料が展示されている。



《受胎告知図柄菓子鉢》17世紀 デルフト キリスト教を画題とする陶磁器。松浦史料博物館蔵  
\*展示物については定期的に展示替えが行われます。



## 松浦史料博物館

住所:〒859-5152 平戸市鏡川町 12 番地  
TEL:0950-22-2236  
URL: <http://www.matsura.or.jp/>  
■開館時間 8:30~17:30  
■休館日 年末年始(12/29~1/1)  
■観覧料 500(400)円 高校生300(240)円 小中生200(160)円 ※( )内は20名以上の団体割引料金。身体障害者割引有。  
■駐車場 無料(普通車15台)



## 平戸城

住所:〒859-5121 平戸市岩の上町 1458  
TEL:0950-22-2201  
URL: <http://www.hira-shin.jp>  
■開館時間 8:30~17:30  
■休館日 年末(12/30、31)  
■観覧料 大人500円 高校生300円 小中学生200円 ※30名以上の団体は2割引  
■駐車場 無料



## 禁教の歴史を壮絶に物語る 根獅子の聖地に建つ資料館

ポルトガルとの貿易の利益を見込んだ松浦氏は布教の許可はしたものの、自らは洗礼を受けませんでした。が、重臣である籠手田氏とその同族の一部氏が入信しました。1557年(弘治3)ヴィレラ神父の指導のもと、籠手田領であった生月、平戸島西岸の獅子、飯良、春日で一斉改宗がなされ、のち1565年(永禄8)、一部氏が支配していた根獅子も一斉に改宗が行われました。

禁教時代には信徒たちは、信仰組織を維持して、仏教を隠れ蓑にしながら自らの信仰を続けてきました。ポルトガル語でのオラシヨ(祈りの言葉)を代々伝えていき、役人に見つからないよう暗い納戸にキリシタンのご神体(納戸神)を秘蔵するなどして信仰を守り続けたのです。

平戸島の中央に位置する潜伏キリシタンの歴史が息づく根獅子地区をたずねました。禁教時代、根獅子にはキリシタンを取り締まる切支丹宗門改奉行の宗門目付がおかれていたこともあり、キリシタン弾圧は特に激しかったといわれています。現在(平戸



《メダイ》17世紀中期 鉄製 ヨーロッパで製作されたもの。表はイエスキリスト、裏面は聖母マリアの横顔が描かれている。



《御神体》 納戸神の御神体として部屋の中心柱をくり抜いた中に納められていた。



《アッシジの聖フランシスコ像と革張りの木箱》 印刷された聖フランシスコ像。聖画として伝わった。



## 平戸市切支丹資料館

〒859-5376 平戸市大石脇町 1502-1  
TEL:0950-28-0176  
URL: <http://www.hira-shin.jp>

■開館時間 9:00~17:30  
■休館日 水曜、年末年始(12/29~1/2)  
■観覧料 一般200(160)円、高校生150(120)円 小中学生70(56)円 ※( )内は30名以上の団体料金  
■駐車場 無料



「おろくにんさま」を葬るウシワキの森



# かくれキリシタンの里、 生月「島の館」をたずねる

根獅子地区から車で走ること約15分、生月大橋を渡って、かくれキリシタンの古俗が残る生月島へ。現在の生月島の人口は約六千人、素朴な自然と文化が残る美しい島です。生月も根獅子と同じく、禁教期には多くのキリシタンが殉教して、島の各地には当時の悲話をしのぶことができる聖地が残っています。キリシタンの信仰指導者であった西玄可（ガス・パル西）が処刑・埋葬された場所は「ガス・パル様」と呼ばれ、島の東岸に位置するその場所の地名は「黒瀬の辻」といいますが、黒瀬はクルス（十字架）が訛ったという説があります。また、島の南西海岸にある暖竹の茂みの中には、隠れていた親子3人が船から探索していた役人に見つかリ殉教したという「ダンジクさま」が祀られています。明治時代に入ると、県内の他の地域同様、カトリック教会による再布教がおこなわれますが、生月では、多くの信者が潜伏期の信仰形態を続けるかくれキリシタン信仰を継続する途を選びました。

訪れたのは、生月大橋近くに建てられた「平戸市生月町博物館・島の館」。江戸時代に日本最大規模を誇った生月の益富組の捕鯨に関わる展示と、長い迫害に耐えて受け継がれたかくれキリシタンの信仰を中心に紹介しています。特に、かくれキリシタンに関する展示品の充実ぶりには目を見張るものがあり、「納戸神」ともいわれるお掛け絵は、聖母子などの聖画を対象とした信心がおこなわれていた当時の、キリシタン信仰の様相を伝えてくれる生月ならではの遺物です。

18年前のオープン当時から館の運営に携わっている中園成生さんは福岡出身。呼子で捕鯨の調査をしたことがきっかけで、ここ島の館へ学芸員として赴任してきました。

「長年調査してわかったことなのですが、生月のかくれキリシタンは日本における布教当初のキリシタン信仰の形態が残されており、外海のかくれキリシタンは禁教に入る頃の信仰が強い影響を与えているようです。」



学芸員の中園成生さん

せん。オラシヨ（祈り）なども、キリシタン信仰当時と今日のかくれ信仰のオラシヨを比較すると、多少は欠落したりなまった部分がありますが、全体としては驚くほどよく残っています。宣教師が居なくなっただこと

外海や五島のかくれキリシタンの方々も、かくれ信仰と一緒に仏教や神道の行事を行っています。これらの信仰と少し距離を置いてきたところがあります。それに対して、生月では、仏教や神道その他の信仰も、かくれキリシタンの信仰とともに熱心に行われているところに特色があります。葬式の例をとると、外海や天草では仏教の葬式を行います。それが、それと並行してお経の効力を消す「経消し」の祈りを唱えていました。しかし生月の葬式では、仏教もかくれキリシタンも必要な儀礼を一通り行っており、いわば2つの葬式を同時にやっているようなところがあります。

これまでの学説では、かくれ信仰は、250年の長い禁教の間にキリシタン信仰が変容した所産だと言われていましたが、私はそうは思いません。オラシヨ（祈り）なども、キリシタン信仰当時と今日のかくれ信仰のオラシヨを比較すると、多少は欠落したりなまった部分がありますが、全体としては驚くほどよく残っています。宣教師が居なくなっただこと

で、かえって変えることができません、そのまま継承することしかできなかったのです」

中園さんの熱心なお話を聞きながら展示品を眺めていると、遠い時代のキリシタンの祈りの声が聞こえてくるような気がします。キリシタン関連の展示室の奥には、生月のかくれキリシタンの家とその祭壇を再現した部屋があり、とてもリアルに生月の信仰生活を知ることができます。



キリシタンの聖画の図像を継承する生月島のお掛け絵（納戸神）

## 平戸市生月町博物館・島の館

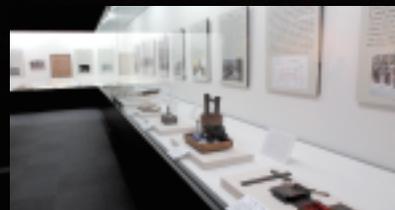
〒859-5706 平戸市生月町南免4289番地  
TEL:0950-53-3000

URL: <http://www.ikitsuki.com/yakata/>

- 開館時間 9:00～17:00
- 休館日 年始(1/1-2) ※燻蒸等臨時休館有
- 観覧料 一般500円、高校生300円、小中生200円  
※団体割引有  
(15名以上1割引、50名以上2割引、100名以上4割引)
- 駐車場 無料(普通車56台、バス6台)



かくれキリシタンの祭壇を再現した部屋



企画展示室では、定期的に生月の文化を紹介する展示会が行われています。



教会の雰囲気のあるキリシタン関連の常設展示室



生月島での信仰の行事で用いられていたお水瓶やオペンテンシャ(鞭)

# 南蛮貿易で栄えた口之津港と キリシタン大名有馬氏の居城「日野江城」

1562年(永祿5)に有馬義貞(義直)は、弟の大村純忠が開港した横瀬浦駐在のトルレス神父に使者を送り、宣教師の派遣とポルトガル船の入港を願いました。ここから島原半島におけるキリスト教をめぐむ物語が始まります。アルメイダ修道士の布教をはじめ、島原半島で最初の教会が開設され、トルレス本人も口之津を拠点とするようになりました。1567年(永祿10)には、要請していたポルトガル船が来航し、貿易港としても繁栄しました。以後数多くの宣教師が往来し、1579年(天正7)にはイエズス会巡察師ヴァリニャーノが来航して、宣教師会議がこの口之津で開かれています。その後の長いキリスト教弾圧と鎖国期を経て、再び石炭積み出し港として栄えた口之津の歴史は、港の入口に建つ〈南島原市口之津歴史民俗資料館・海の資料館〉で学ぶことができます。

## 南島原市口之津歴史民俗資料館・海の資料館

住所: 〒859-2502 南島原市口之津町甲 16番7  
TEL: 050-3381-5089  
URL: [http://www.city.minamishimabara.lg.jp/kiji/pub/detail.aspx?c\\_id=54&id=72&pg=1](http://www.city.minamishimabara.lg.jp/kiji/pub/detail.aspx?c_id=54&id=72&pg=1)

■開館時間	9:00～17:00
■休館日	月曜、年末年始(12/29～1/3)
■観覧料	一般 200(150)円 高校生 150(100)円 小中学生 100(70)円 ※( )内は20名以上の団体割引料金
■駐車場	無料(20台)



原田建夫館長からわかりやすく解説していただけます。

17)に有馬晴信が歿し、2年後子の直純は日向延岡に移り、代わって1616年(元和2)に島原半島に入った松倉重政と子の勝家が課した重い年貢と凶作、雲仙地獄での拷問をはじめとする激しいキリシタン弾圧に対する領民の怒りが島原半島南部で爆発し、口之津代官所が襲われました。一揆は天草に飛び火し、同じく唐津藩の重税に苦しむ領民が富岡城を攻撃しました。1638年1月(寛永14年12月)には、約3万7千人ともいわれる島原・天草の人々が集結して廃城となっていた原城に立てこもりました。西国の諸藩やオランダ船までもが参戦して10万を超える幕府軍に包囲される苛烈な状況下での88日におよぶ籠城の末、同年4月(寛永15年2月)に陥落し、天草四郎を総大将とする一揆軍は全滅してしまいます。一揆軍のほとんどがキリシタンだったといわれ、乱後徹底的に破壊された城跡からは、十字架やメダイなどのキリシタン遺物が多数発見されています。



金箔瓦

るのが、島原・天草の乱の凄まじさを物語る、多くの人骨が埋まった遺跡の再現展示。そして、弾などを溶かしてつくった鉛の十字架や、メダイ、ロザリオなどのキリシタン関連の出土品のほか、有馬時代の城郭に使われていたと思われる瓦、輸入陶磁器などが、キリシタン文化に彩られた当時の生活を彷彿とさせます。中でも、日野江城跡から発掘された「金箔瓦」

南島原市北有馬町にある「日野江城跡」(国指定史跡)。高さ80mのゆるやかな丘陵に残る古い石垣等が、かつてここが城であったという歴史の一片を今に伝えていきます。キリシタン大名となった有馬氏の居城で、1580年(天正8)には、城下にセミナーヨが設けられました。天正遣欧使節(1582年出発、90年帰国)の4人の少年も、このセミナーヨで学び、帰国後、日野江城で報告会を開催しています。そのときの華やかな城の様子は「大小の部屋はすべて黄金の品や典雅で華麗な絵画で飾られていた」(イエズス会日本年報)などとローマにも伝えられています。



石段が発掘されましたが、現在は保存のため埋め戻されている。

## 島原・天草の乱の壮絶な 舞台として語り継がれる「原城」

日野江城から南に約5kmの岬には同じく有馬氏の居城であった「原城跡」(国指定史跡)があります。ここは、徳川幕府の治政下で最大の反乱といわれる島原・天草の乱の舞台となった場所です。1612年(慶長



原城跡



日野江城跡

## 原城文化センター 発掘出土品展示室(仮称)

〒859-2412 南島原市南有馬町乙 1374  
TEL: 0957-85-3217  
URL: [http://www.city.minamishimabara.lg.jp/kyouiku/kiji/pub/detail.aspx?c\\_id=127&id=516&pg=1](http://www.city.minamishimabara.lg.jp/kyouiku/kiji/pub/detail.aspx?c_id=127&id=516&pg=1)  
※2014年3月末までリニューアルのため休館



## 島原城 キリシタン史料館

〒855-0036 島原市内1-1183-1  
TEL: 0957-62-4766  
URL: <http://shimabarajou.com/top>

■開館時間	9:00～17:30
■休館日	年末(12/29・30)
■観覧料	一般520円、小中高生260円 ※団体(30人以上)は個人の2割引
■駐車場	有料



## 天草市立天草キリシタン館

天草殉教公園(城山公園)に隣接する資料館。2010年にリニューアルオープンした。1566年(永祿9)にキリスト教が布教されて以降の、島原・天草の乱を中心とした天草のキリスト教に関する歴史が紹介されている。《綸子地着色聖体秘蹟図指物(天草四郎陣中旗)》(国指定重要文化財)を所蔵(期間限定公開)。



〒863-0017 熊本県天草市船之尾町 19-52  
TEL: 0969-22-3845  
<http://www.city.amakusa.kumamoto.jp/kirishitan/>

## 天草市立天草ロザリオ館

天草キリシタンの信仰等に関わる資料を展示。そばにはガルニエ神父によって1933年(昭和8)に建てられた大江天主堂がある(設計は鉄川与助)。



〒863-2801 熊本県天草市天草町大江 1749  
TEL: 0969-42-5259  
<http://hp.amakusa-web.jp/a0784/MyHp/Pub/>

# 大村純忠ゆかりの地に残る 貴重なキリシタン資料

近世の大村領は、城下町大村を中心にポルトガルとの貿易港として開港した横瀬浦(現西海市)や外海地区(現長崎市)を含む西彼杵半島、そして浦上の北部地域(同、時津町・長与町)など、大村湾をとり囲む範囲に及びます。日本最初のキリシタン大名大村純忠は、天正遣欧少年使節を送り出した大名のひとつで、彼の時代に根付いた人々の信仰心は、禁教下の厳しい状況の中にあってもすべてが消えることはありませんでした。



島原・天草の乱から20年後の1657年(明暦3)、突如藩伏キリシタンの存在が明らかになりました。大村藩は、城下北部の郡地方を中心に住民603人を捕らえ406人を処刑するというこれまでにない厳しいキリシタン弾圧を行い、この「郡崩れ」と称される弾圧を最後に大村藩中心部でのキリスト教信仰は途絶えたとされています。

JR大村駅にほど近い大村市立図書館の2階にある(大村市立史料館)では、年3回の企画展や、それ以外の期間に開催される常設展で、大村の歴史資料が豊富に展示公開されています。キリスト教関係の資料を捜してみよう。メダリオン「無原罪の聖母」(県指定有形文化財)は、大村家の家老を務めていた宇多家の墓石の下から発見されたもので、歿年は禁教中の1639年(寛永16)。当時、キリシタン宗門の取り締まりに当たっていたはずの家老自らが、密かにキリスト教を信仰して

いたことを推測させる興味深いメダルです。また、大村市原口郷出土のキリシタン墓碑(県指定有形文化財)には、中央に「花十字」、その下に洗礼名の「BASTIAN(バスチャン)」と「FIOBV(ヒョウブ・兵部)」の文字が確認できます。半楕円形の切石墓碑の墓碑は国内唯一で、かつて古い様式のものと考えられている貴重なものです。

メダリオン「無原罪の聖母」(写真上)(県指定有形文化財)16世紀前半、スペイン、マドリードの王立造幣局製造で、類品が、東京国立博物館と大浦天主堂にも所蔵されています。※展覧会の内容によっては、展示されていない時期がありますので、事前にお問い合わせ下さい。※所蔵品の詳細な解説や、史料館の最新情報、そして研究速報などは「おおむらデジタル博物館」で閲覧することが出来ます。http://www.omura-dejihaku.jp/(→P.21 ミュージアム・トピックス参照)

大村市原口郷出土のキリシタン墓碑(県指定有形文化財)



## 大村市立史料館

住所:〒856-0831大村市東本町481(大村市立図書館2階)  
TEL:0957-53-1979  
■開館時間 10:00~18:00  
■休館日 月曜、祝日(月曜に当たる場合は、以後の直近の平日) 毎月第3木曜(祝日の場合は翌日) その他、特別整理期間 年末年始(12/28~1/4)  
■観覧料 無料  
■駐車場 無料(普通車34台) ※図書館と共用



国際クルーズ客船が接岸する長崎市の松が枝地区にある、現代的なコンクリートの建物が「ナガサキピースミュージアム」。ここは、被爆50年にあたる1995年(平成7)、長崎出身の歌手さだまさしさんが「長崎から平和を発信しよう」と呼びかけた「ナガサキピーススフィア貝の火運動」が運営母体となり、全国各地のボランティアと共に活動を続け、多くの賛同者からの募金をもとに、2003年に開館した「平和文化型ミュージアム」です。

「貝の火運動の目的は、平和情報の発信と平和ネットワークの構築です。美しい自然や子どもの笑顔を紹介する展示や、音楽などを通し、子供たちが笑顔でいられるよう、平和への一歩を考える運動を行っています。」と設立準備時から関わってきた事務局長の村田聡子さん。具体的な活動としては、世界各地で起こっている紛争や飢餓、環境問題などの情報を広く伝えるために、全国のボランティアを中心に地域でのパネル展などを行っています。「ここナガサキピースミュージアムは、その運動の拠点であり、情報発信の場なのです。」

建築面積が200m<sup>2</sup>弱のコンパクトな空間には、世界の紛争地図の展示コーナーと、吹き抜けの明るいホールがあり、ホールでは各種展示会のほか、ミニライブなども行われています。

県外に約120名、長崎には約20名のボランティア登録があり、長年にわたって活動を支えています。展示会やイベントのほか、フリーマーケットやバザーを行う時もボランティアの皆さんが頑張っているそうです。

11月には東京で「ピーススフィア関東パネル展~未来の子どもたちに笑顔を」が開催され、延べ35人のボランティアが活躍。小さなミュージアムから発信される平和のメッセージは確実に日本中に広がっています。

# 平和への想いがつくったミュージアム。 今もボランティアに支えられています。



スタッフの皆さん(右から二人目が事務局長の村田さん)

## ミュージアムの人々 ナガサキピース ミュージアム



平和への願いを込めてボランティアの皆さんが作っている「せんそうほうき」と折り鶴。来館された方にプレゼントされています。



年間約15本の展覧会が開催されています。

住所:〒850-0921 長崎市松が枝町7-15  
TEL:095-818-4247  
URL:http://www.nagasakips.com/  
■開館時間 9:30~17:30  
■休館日 月曜(祝祭日の場合は翌日)、年末年始(12/26~1/1)  
■観覧料 無料  
■駐車場 無し



逸品紹介

長崎県立対馬歴史民俗資料館は1977年（昭和52）に開館した資料館です。代表的な収蔵品には対馬藩宗家に伝わる約8万点の宗家文庫史料があります。そのほか対馬に遺されている歴史資料や仏教美術品、民俗資料について収集・保管・調査研究を進めています。

「ハギトウジン」 戦前頃まで対馬南端にある豆蔵地区でつくられていた仕事着です。トウジンギモン・ヤマギモン・ヤママイギモンとも呼ばれており、おもに田植えや畑仕事などの際に女性が着用しました。ハギトウジンは自給自足を基本としていた対馬の暮らしのなかから生み出された着物です。動きやすさを重視した仕立てとなっていて、唐人袖といわれる細い袖に、さらに袖下に斜めの布を補うことでゆとりを持たせています。くわえて、40枚以上の小布をパッチワークのようにつぎあわせているのが特徴です。明治終わりごろまでの伝統的なハギトウジンは紺無地・縞・縞などを利用していましたが、大正期から昭和初期にかけて行商人などから安価に入手することのできた久留米紬を用いるようになり、また藍染地に鮮やかな白い模様（久留米紬を、左右のバランスや組み合わせを考えながら配置することで多様なデザインが生まれました。豆蔵の女性たちが競いあうようにオリジナルのハ



大正～昭和初期 綿 裾63cm 丈144cm

ハギトウジン

ギトウジンを作ったことで独自の服飾文化にまで発展したといえます。

「朝鮮国信使絵巻」 (県指定有形文化財) 朝鮮通信使の行列を描いた絵巻で、対馬宗家が旧蔵していたという由緒のあるものです。国内外に残されている通信使絵巻の中でも古く、制作年代は正徳度（1711年）以前と言われています。朝鮮通信使は徳川将軍の慶事ごとに

朝鮮国信使絵巻



17～18世紀 紙本着色（本紙）縦38cm 上巻横811.9cm 下巻横955cm

朝鮮王朝が派遣した外交使節で、江戸時代の来日回数は12回を数えます。使節団は400～500名ほどの人員で構成され、両国の国書を交換するために将軍のいる江戸を目指しました。絵巻は上下2巻に分かれ全長17メートルを超えるものですが、行列を先導する清道旗や形名旗を描いた部分がないことから、本来はもう少し長いものだったと考えられています。巻首から楽人・軍官・正使・副使・従事官など朝鮮官人が、さらに案内役として対馬宗家の家臣団が随行する様子が描かれています。海外との交流が制限されていた当時の人びとにとって通信使の姿は珍しいもので、多くの絵画資料が残されています。本作品も対馬藩が後世の記録用として制作したと考えられますが、帽子をかぶり官服を着用した朝鮮人とまげを結った日本人の風俗の違い、一人ひとりの顔の表情やしぐさなどが見事なまでに描き分けられており、鑑賞用としても完成度の高い作品となっています。

〔主任学芸員 山口華代〕

住所：〒817-0021 対馬市厳原町今屋敷668-1 TEL:0920-52-3687  
URL: http://www.pref.nagasaki.jp/section/edu-tsushima/  
■開館時間 9:00～17:00  
■休館日 月曜（祝日の場合は翌日）、年末年始（12/28～1/5）、資料整理期間（年1回、10日間）  
■観覧料 無料  
■駐車場 無料（普通車約4台）



自慢の体験プログラム  
昔懐かしいアナログの音楽に包まれる  
癒しのミュージアム——やすらぎ交流拠点施設 音浴博物館



エジソンが発明した蝋管レコードに耳を傾けるNBCラジオパーソナリティの栗原優美さん

今回訪れたのは、長崎市から車で約1時間の西彼杵半島の山中にある（やすらぎ交流拠点施設 音浴博物館）。1976（昭和51）年廃校の雪浦小学校開拓分校校舎を2001年に音浴博物館として開館後、2004年にやすらぎ交流拠点施設としてリニューアルオープンしました。映画に出てくるような昔の小学校の雰囲気そのまま活かした施設は、一歩足を踏み入れただけで、とても懐かしい昭和のぬくもりが感じられます。ここではその名の通り、音を体験する博物館として、栗原榮一郎・節子夫妻が蒐集した約15万枚におよぶLPレコードや約1万枚のSP盤などを、自由に聴くことができるのが特徴です。

「中にはお弁当持参で、まる一日音楽を聴きにこられるファンの方もいら

つしやるんですよ。スタッフの方が館内をていねいに説明してくれるので、貴重なコレクションの価値がよくわかります。エジソン社の蝋管蓄音機をはじめ、国産第1号のテープレコーダーなど、見るものすべてが珍しいものばかり。なかでも圧巻はイベントホールにある1950年代からの名機と言われるスピーカー群。「LPホール」から好きなレコードを探してきて自由に聴くことができます。まさに体験型音のミュージアムです。



国産第1号のテープレコーダーとニッパー君



住所：〒857-2323 西海市大瀬戸町雪浦河通郷342-80  
TEL:0959-37-0222  
URL: http://onyoku.org/  
■開館時間 10:00～18:00  
■休館日 月曜（祝日の場合は翌日）  
■観覧料 一般500円、小中学生250円、小学生未満無料  
■駐車場 無料（普通車10台、バス1台）



名機と称されるスピーカーが圧巻のイベントホール



LPホールではさまざまなジャンルの約15万枚のLPやドーナツ盤を自由に聴くことができます。



蓄音機の館には約60台の手回し蓄音機と、今ではたいへんな希少価値のある約1万枚のSP盤があり、こちらも自由に聴くことができます。



## ウェブサイト「おおむらデジタル博物館」が開設

http://www.omura-dejihaku.jp/  
大村市立史料館の所蔵資料などをインターネット上で公開する「おおむらデジタル博物館」がオープンしました。歴史資料を楽しく見て学べるサイトとして開設されたもので、大村市立図書館・史料館前の天正夢時計をモチーフとした仮想空間の中に設けられた「大村藩」と「南蛮・キリシタン」の間で、キャラクター「大村ミタダ」と「原マルチノ」がナビゲーターとなり、歴史資料群が紹介されています。また、大村市立史料館の各種イベント情報のほか、ブログ「学芸員の部屋」では、最新の大村史研究の成果等が随時紹介されています。そして、長崎歴史文化博物館、長崎県美術館、壱岐市立一支国博物館の収蔵資料とあわせての検索が出来るシステム「ながさきミュージアムネットワーク」も併設されています。

■問い合わせ先：大村市文化振興課  
TEL:0957-53-4111〔内線386〕



## 諫早市美術・歴史館がオープンします

郷土「諫早」を理解し、親しみ、愛着を育てる場として整備が進められている諫早市美術・歴史館が、平成26年3月1日にオープンします。11月10日には、建物見学会が行われ、期待に胸膨らませた多くの市民が参加しました。建物の外観は隣接する御書院庭園と調和した「蔵」をイメージしており、1階には諫早の歴史や美術品を紹介する常設展示室が設けられ、庭園を借景とした落ち着いた雰囲気での鑑賞もできるよう工夫されています。また、展覧会が開催できる多目的ホールも設けられています。2階には企画展示室と研修室、3階には展望テラスが設けられ、御書院を一望できます。

■敷地面積約3,747㎡、建築面積約2,133㎡、延床面積約3,292㎡、敷地内の専用駐車場：普通車30台(身障者用含む)

■問い合わせ先：諫早市企画政策課  
TEL:0957-22-1500(代表)



## モデル事業 連携リレー講座の開催

長崎県では、ミュージアム連携促進事業のモデル事業として、県内の各市町等のミュージアムおよび関係団体で「外海地区を端緒とするキリスト教文化とミュージアム協議会」を設け、外海地区、五島列島、平戸におけるキリスト教信仰の歴史と文化を踏まえた事業を相互協力のもと展開しています。その事業の一環として平成25年9月9日に第2回連携リレー講座を長崎歴史文化博物館にて開催し、126名の方々に聴講いただきました(第1回は3月3日に新上五島町 鯨賓館ミュージアムにて開催)。

講師として女子美術大学の原聖教授をお迎えし「ド・ロ神父の版画」について講演いただいたのははじめ、新上五島町世界遺産推進室の高橋弘一氏に外海地区と新上五島町の集落景観や教会建築について比較しながら講演いただきました。また、旧出津救助院の運営を行っているボランティア団体「ド・ロさまの家」の活動について同代表の川田正勝氏に報告をいただきました。



## 長崎バイオパークと長崎ペンギン水族館に待望のあちゃん誕生

長崎バイオパークは、国内でカバを最も数多く飼育している施設として知られ、そのカバの池で、平成25年6月4日午後3時、カバのドン(父親)とノンノン(母親)の赤ちゃん(オス)が生まれました。ノンノンにとっては17年ぶりの4回目の出産でした。赤ちゃんにとって、人気者のモモはお姉さんで、7月に旭山動物園に移った百吉は、モモの子であるため年上の甥にあたります。名前は約千件の応募の中から、生まれた月日と時間にちなんだ「ムサシ」が選ばれました。

長崎ペンギン水族館では、繁殖が難しいキングペンギンのヒナが3年ぶりに2羽誕生しました。キングペンギンは1年に1個しか産卵せず、



ふ化までは54日間ほどかかります。そのため、同館で、同時期に2ペアから2羽のヒナがふ化したのは初めてのことで(1羽目8月10日、2羽目8月25日ふ化)。通常より小さく元気がなかったため、最初は飼育係が人工給餌で育てていましたが、その後は両親からたっぷり餌をもらって、すくすくと育っています。ヒナたちは窓側近くに

いることが多いので、ほのぼのしい親子のふれあいを見ることが出来ます。

■長崎バイオパーク  
開園時間：9:00~17:00(入園16:00まで)、無休  
入園料：一般1,600円ほか  
〒851-3302 西海市西彼町  
中山郷2291-1 TEL:0959-27-1090

■長崎ペンギン水族館  
開館時間：9:00~17:00、無休  
入場料：一般 500円ほか  
〒851-0121 長崎市宿町3-16  
TEL:095-838-3131

本誌は、長崎県内のミュージアムの一体的な情報発信を目的として平成24年度に創刊しました。本年度は、年2回発行の予定です。県内ミュージアムに関する情報等がございましたらご提供下さい。

■連絡先：長崎県企画振興部  
文化観光物産局 文化振興課  
TEL:095-895-2762



斜めに組まれた太い集成材が特徴のダイナミックな外観。内部も天井まで吹き抜けとなっており、大型の展示物も余裕のある展示を実現しています。

入口の門をくぐり右手に見える大きな三角屋根の建物(千拓資料館)で、諫早市の子どもたちをはじめとする人々の学びの場として親しまれています。

この建物は、公共的な建築物を木造で建築することにより、その優れた性能などを広く伝え、木材需要の拡大を目指した国の「モデル木造施設建設事業」によって建てられました(1988年開館)。この事業は、新たな建築方法を用いることも特徴となっています。

千拓資料館で用いられた特殊な建築方法とは、現在では一般的な工法となっていますが、フレーム架構に断面が16cm×80cm、長さが16mもある大きな集成材(板材を接着したもの)を用い、約10mもの天井高と、柱の無い大空間を作り上げています。また、この大きな集成材は選炎性で防災性能が高いことから、建築基準法で定められた防災上必要な小屋裏隔壁の設置や内装の制限等を、建設大臣(当時)の特認によって越えることができ、千拓地で用いられている「石突き棒」家を建てるときの基礎打ち棒)や「四ツ手網」(仕掛け網)などの高さのある民俗資料の展示が可能となっています。

建設されてから約25年が経つ今でも、木造建築の可能性を示唆する堂々とした姿で私たちを迎え入れてくれます。



旧早川家住宅(市指定有形文化財)と千拓の歴史と仕組みが大きな模型とともに新旧2棟の木造建築物が並ぶ。映像でわかりやすく解説されています。



住所：〒854-0031 諫早市小野島町2232 諫早ゆうゆうランド千拓の里内  
TEL:0957-24-6776  
URL:http://www.kantakunosato.co.jp/  
■開館時間 9:30~17:00(入館は16:30まで)  
■休館日 月曜(祝日の場合は翌平日)、年末年始(12/30~1/1)

■観覧料 「諫早ゆうゆうランド千拓の里」入園料が必要  
高校生以上300(240)円、小中学生200(160)円  
3歳以上の未就学児100(80)円  
※( )内は20名以上の団体割引料金  
■駐車場 無料(普通車400台、バス10台)